

リーディングDXスクール事業【実践事例】

桑名市立大山田北小学校

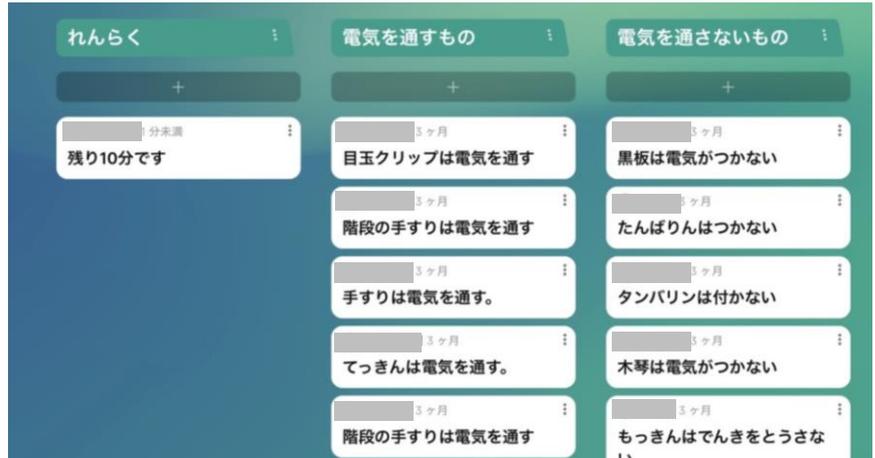
【取組内容①】「クラウドを活用した、個別最適・協働的な学びの充実」

☆思考する場面でクラウド環境を活用。考えや活動成果を常に共有。
 ☆共有された情報を生かした、個別最適・協働的な学びが生まれる。

2年生算数：大きな数



共有されたノート上に考えを記入。必要に応じて、いつでも他者参照が可能。



友達と協力しながら実験を進める児童

共有された情報を参考にしながら実験場所を決めていく

3年生理科：電気で明かりをつけよう

【取組内容②】「動画教材を活用した技能向上の取り組み」

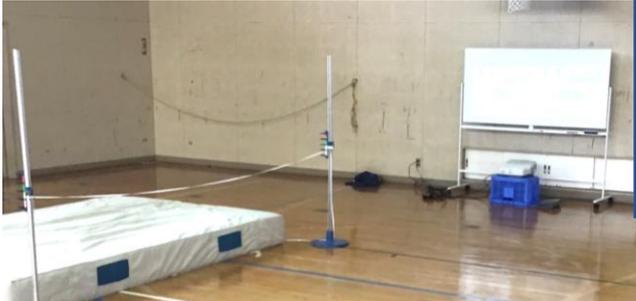
☆自身を客観的に見ることで、課題を発見。
 ☆プロの技能をいつでも見られる環境。

6年生体育：走り高跳び

一人ひとりの跳び方を撮影し、個人や児童同士で見比べることができるようにした。
 次時で、その動画と見本の動画を見比べることで、自身の跳び方を分析し、良いところや課題を考えた。



撮影した映像が遅れて再生される機能を使用し、自身の試技を即座に確認できるようにした。



めあて 自分の跳び方を撮影してもらい、きれいに跳ぶコツを見つけよう

- リズムの良い助走はとれていたか
- 勢いのある踏み切りはできていたか
- 空中での姿勢は安定しているか(足が伸びている、腰の位置が高いなど)
- 着地の時にバランスをくずしていないか。



ふりかえり

助走したけど、一回止まってしまっているので、止まらないようにしたい。
 あと、空中姿勢のとき、足がまがっているので、のぼすようにしたい。
リズムでとぶのが難しかったです。
 着地のときに、バランスをくずしていなかったと思うので、よかったです。

勢いを止まずに力に変えるのはなかなか難しいですね。足を高く上げるように心がけて越えるの

ふりかえり

助走からのリズムが飛ぶ直前に止まってしまうと思ったから、助走の勢いそのまま踏み切りをすることを意識しようと思った空中姿勢で手を上げすぎていると感じた。

助走の勢いをそのまま真上につなげられるといいですね。空中では顔が手の位置とどう揃えば安定形なの?

児童の振り返りにも、動画で見た自分の姿をもとにした改善が記載されている。

☆さらなる改善のために・・・

教師からのアドバイスは、授業中の言葉かけや、授業後ふりかえりに記入するものなど、即時性に欠けるため、双方の関わりが視覚化されるチャット機能を活用できるとより活発な活動になると考えられる。

【取組内容③】「端末持ち帰りによる家庭との連携強化」

クラウドを利用した家庭との連携のおすすめポイント

- ① 「いつでも見れる」「どこでも見れる」
- ② 白黒での印刷→カラー閲覧でより鮮明に。
- ③ 紙の大幅な削減！

これまでじっくり見る機会が取れなかったものも、クラウド保存することで閲覧する機会が増加。作品を通じた親子の会話により、学習意欲の向上も期待できる。



図工の作品や社会の調べ学習、行事の振り返り新聞等をクラウド上に保存し、持ち帰った端末で、いつでも作品の閲覧が可能。感想入力用のフォームも準備し、作品を通じた双方向の交流が実現。URLを共有すれば、家庭の端末からの閲覧も可能となる。



カラーで見られ、ファイリングする必要のないおたよりの配信は大好評！



【取組内容④】「クラウドを活用した、研修会の効率化、協働化」

クラウドベースの研修会3箇条

- ① 指導案は印刷せず、クラウドで共有し各自の端末へ
- ② クラウド保存することで、修正した指導案をシームレスに共有
- ③ 参観中の気づきはクラウド上で即反映・即共有

各参観者が、気付きや児童の行動、発言をリアルタイムでコメント。それを見て児童の様子を見に行ったり、コメントに対してすることも。



校外からの参加者にも、二次元コードで最新の指導案を共有



参観時の持ち物はタブレット。指導案の閲覧だけでなく、メモや子どもの様子の撮影などを行う姿も。



☆印刷の手間、紙資源の大きな削減！
 ☆個人の考えを共有済み→協議の時間増！
 ☆リアルタイムで残した情報を基に協議
 →子どもの姿をもとにした授業改善に効果的！

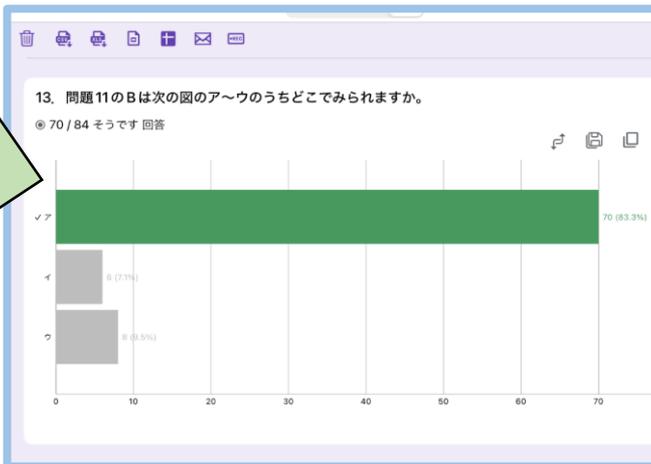
【取組内容⑤】「クラウドを活用した評価の充実」

- ☆テストをアンケートツールで作成
- ☆授業で使用した画像をそのまま使うことで、指導と評価の一体化につながる
- ☆自動採点・自動集計のため、教師の作業時間が大幅に短縮



単一選択、複数選択だけでなく、使用するツールによっては記述問題の作成も可能。
授業で使用した画像をそのまま使うことで、授業時のイメージがそのままテストにも生き、指導と評価の一体化につながる。

選択問題であれば自動採点、自動集計されるため、採点の時間を削減できる。また、記述問題も、設問を並べて採点することで、評価のブレを避けることができる。



出席番号	1, 次の図	2, 問題1	3, 次の図	問題3の
1	B	しん食	A	たい積
2	B	たい積	A	たい積
3	B	しん食	A	しん食
4	A	しん食	B	たい積
5	B	しん食	A	たい積
6	B	しん食	A	たい積
7	A	しん食	B	たい積
8	B	しん食	A	たい積

※採点結果は実際のものではなく、数値等はすべてダミーです。